学校法人　福岡成蹊学園　福岡外語専門学校　令和４年度　自己評価表

	評価項目	評価（昨年度） ④適切　③ほぼ適切 ②やや不適切　①不適切	課　題	今後の改善方策	特記事項
教育目標　教育理念・	①　教育理念・教育目標が、毎年確認され職員に浸透しているか。	3（4）	業績評価の導入を機に、朝礼や全体会を通して、本校の教育理念や新たな教育目標を確認することができた。反面、教職員一人一人にまで浸透しているとは言えない面がある。本校の理念や目標がさらに浸透する努力を重ねる必要がある。	定期面談の項目を教育理念･目標を意識したものに見直すと共に、全体会や定期面談を通してさらなる浸透を図る。	過去 2 年間の状況を踏まえ、来年度については業績評価･行動評価の大きな見直しを行うことにしている。
	②　教育理念・教育目標は、社会のニーズに合っているか。	4（4）	社会は、本校が目指す「世界の架け橋」となる即戦力（活躍できる人財）を求めている。今後ともグローバル人財の育成に力を注ぐ必要がある。	職業教育の視点から、社会が求める人材像を具体化し、カリキュラムに位置づける。	今後、自身のキャリアパスを意識できる教育内容を準備したい。
学校運営	①　学校の教育目標に沿った運営方針・事業計画を策定し、運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか。	3（4）	We are a global family. を学校のコンセプトとして、具体的な運営方針･事業計画が作成されている。諸会議において実施状況を確認するだけではなく委員会等での外部からの意見を参考に更なる教育目標実現に努める。	社会や業界の動向を踏まえ、学生アンケート、外部人材からの意見等をもとに、中長期の計画をたて、着実に前へと進めていくことが必要であると認識している。	それぞれがブランドコンセプトを異なるイメージで捉えているように感じる。ブランドコンセプトの明確化が必要。
	②　教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4（4）	ホームページ、ツイッター、インスタグラムを通して積極的な情報公開に努めてきた。今後は、HP への訪問者数、ツイッター、インスタのフォロワー数を増やす努力が必要である。	引き続き情報を常にアップデートして、最新の情報を公開するとともにフォロワー数を増やす方策を考え、実行に移していく。	本年度は特に 120 周年関連イベントを中心に、積極的な情報発信ができたと考えている。
	③　情報システム化等による業務の効率化が図られているか。 また、オンライン授業等への対応は進んでいるか。	3（4）	管理システム S-Wing の活用は浸透してきた。使い勝手をよくする工夫が必要だと考えている。本年度は文化庁のオンライン日本語実証実験に参加し、オンライン授業でも一定の成果が得られることを確認した。日本語科のオンディマンド教材も着々と準備されてきている。	情報システムに加え、適切な情報共有を図るために、クループウェアの導入に向けた研究を開始する。	学校移転を視野に入れた新たな学校事務補助システムを構築することも検討したい。

	評価項目	評価（昨年度） ④適切　③ほぼ適切 ②やや不適切　①不適切	課　題	今後の改善方策	特記事項
教育活動	①　教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4（4）	専門士の要件を満たす就業年数、総授業時間数、単位数を確保している。国内外大学へ編入する学生も少なくないが、レベルの幅がかなり大きい。（英語科） 半期ごとにプレースメントテストを行い、本人に合ったレベルのクラスで授業を行っている。また、コース２年コース・1.5 年コース・１年コースでの到達点を明確にしており、学生も自分の到達度を認知することができていると考える。　（日本語科） 教育到達レベルの明確化、学習時間の確保はされているが、結果として、日本語、英語、ＰＣ、ホテル、ビジネス系の上位レベルの資格獲得、進路決定率の向上が課題。　（国際ビジネス科） 学生の人数が少ないため１，２年生混合クラスで運営している。、教育到達目標は明確であるが、学年に応じた構成になっていない面がある。（国際文化科）	少子化や社会のニーズ等を踏まえ、今後学科内容の見直しが必要となることも視野に入れ対処する。(英語科) 2022 年度より、キャリア、ビジネスコースでは、日本語の能力試験対策授業をレベル別のクラスに分け、学生の能力に対応した授業を実施しているが、ホテルコースにおいては、英語能力が求められる求人が多く、英語授業の中に TOEIC 対策も盛り込んで授業実施している。2022 年度実績も踏まえ、更なる改善施策を検討し、授業内容の向上を図る。(国際ビジネス科)	国内大学はもちろん、海外大学へも編入する学生も毎年出ている。(英語科)
	②　キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	3（4）	卒業後の職業が明確化されていないコースが多い。進路選択、留学生におけるビザ取得の可能性が広いという点においては現状も利があると考えられるが「職業としての専門分野」のカリキャラムとしては更に工夫・開発に取り組むことが必要である。	在籍期間の前期後期で、時期によって専門分野を集中させるといった取組を試験的に行う等、段階的に専門性を構成する努力を重ねていきたい。	
	③　関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が行われているか。	4（4）	国際ビジネス科国際ホテル観光ホスピタリティコースにおいて、無償インターンシップにより、1・2 年生それぞれ別のホテル様に、毎週木曜日の午後に参加。毎週は生徒への負担が大きい事と、引率教員の就職活動対応や授業対応等のバランスが難しい場合があった。	短期間のインターンシップや長期休み中の有償インターンシップ、また受け入れ可能ホテル様の新規開拓も進めたい。	1 年生インターンシップ先ホテル様においては就職に繋がりそうな優秀な生徒のみ、来年度も続けて頂く流れで提案中。詳細はこれより詰めていく予定。他生徒・新 1 年生は現在検討中。
	④　授業評価の実施・評価体制はあるか。	3（3）	学生からのアンケートによる授業評価や教員評価を行いフィードバックしている。非常勤教員に対するフィードバックが不十分である。	非常勤教員に対しても学生アンケートに基づいたフィードバック面談を実施したい。	本年度より学科長主体のアンケート調査に切り替えた。
	⑤　資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか。	4（4）	TOEIC・英検・情報処理・ワープロ検定・日本語能力試験等を取得するための学びは体系的に位置付けられている。より高みを目指して指導・支援に励みたい。	学生の資格取得率は必ずしも高くない。日ごろの授業を通した学生へのさらなる動機付けが必要であると考える。	適切なクラス(級)へのエントリーを促していきたい。
	⑥　職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3（3）	ブランドコンセプト実現に向けた研修は充実してきた。反面、教職員の能力開発のための研修は十分ではないと考えている。従来の外部研修会を軸に非常勤教員をも含めた校内の研修会を充実させていきたい。	新たな試みとして、副校長が主催する校内研修、教員主催する自主研修が始まった。この流れを今後も大切に、職員のニーズに合った研修を体系化していくことが大切である。	全専各・福専各の研修を軸に能力や経験に応じた研修体制の確率を目指したい。

	評価項目	評価（昨年度） ④適切　③ほぼ適切 ②やや不適切　①不適切	課　題	今後の改善方策	特記事項
学修成果	①　就職率・資格取得率の向上が図られているか。	4（3）	資格取得費用の個人負担軽減のため、学校からの補助やオンライン学習付き試験の導入も行われたことで効果が表れている。就職については、指導する側の支援知識の充実とともに、留学生は就労できるビザの種類が増えたこともあり向上していると考える。	「職業としての専門分野」を明確にしていくと同時に、「外語」の学校として職業として活用できるレベルの基礎的な語学力向上を目指す必要があると考える。	
	②　卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。	3（3）	学校紹介以外の方法で就職した学生については特に、卒業後の状況把握が十分ではないため、現在の学生へ教育活動として取り入れていくことも十分とは言えない。同窓生との関係継続をどのように行っていくかを検討する必要がある	学校と企業との関係構築ができているところから、定期的に卒業生講話の機会を設定するなどの仕組みづくりを計画するなどが考えられる。	「卒業生から在校生へのメッセージ」募集・校内掲示の取り組みから得た効果を精査して、今後に活かすことを検討したい。
学生支援	①　学生相談に関する体制は整備されているか。	3（4）	担任との個別面談を定期的に実施しているが、学生の抱える問題を早い段階で見つけ、解決に向かうことが課題である。（英語科） 年 4 回の個人面談に加え、学生からの相談や変化に応じ面談を行なっている。また、定期的な授業アンケートで学生の意見を吸い上げている。（日本語科） 学科内で情報連携した上で、相談内容により担任－主任－学科長－副校長という形でボトムアップする相談体制。LINE 公式アカウントも利用しているが、留学生の母語で会話できる体制が脆弱。ネパール人専任職員はいるが、ベトナム人職員は、週２回出勤するアルバイト職員のみである。（国際ビジネス科） 定期的に学生面談の機会を設け、担任の打ち合わせ等で情報共有を図っていた。またクラス LINE 等の活用もあり、今年度はかなり学生相談に関してはできていると思うが、全ての学生が対応できているとはいいがたい。（国際文化科）	現象が出た時点でなるべく早めに本人と話す時間をとる。（英語科） 特にベトナム人の要因配置の必要性があるが、現状は、アルバイト要員の回数を増やす程度の改善を見込む。学生数を確保して、1 年２年単独でクラス編成ができることが必要である。（国際ビジネス科） スピーディーに対応できる体制を整える必要があると考える。（国際文化科）	担任との学生面談を定期的に実施している。担任以外の外部の方に週１回きてもらい学生が相談できる時間帯と部屋を用意している。その大まかな情報は月に１回の専任との打ち合わせで共有している。（英語科）
	②　学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4（4）	公的制度・各種奨学金・修学支援新制度について、学生への周知を徹底している。学生相談に適時対応し適切なサポートを行っている。	学生へはあらゆる手立てを用いて周知を図り、教員と事務局とが連携及び情報共有を行い迅速に対応する。	・文部科学省高等教育修学支援新制度対象校 ・外国人留学生学習奨励金制度対応 ・学校独自の奨学金制度実施
	③　保護者と適切に連携しているか。	3（4）	適切に対処しているが、家庭の事情等で連絡が取れない、取りにくい保護者もいる。（英語科） 出席不良や何か問題が起きた際は、留学生の送り出し機関を通して保護者に連絡している。可能な限り学生をサポートするよう事務所職員と協力して指導にあたっている。（日本語科） 学生の出席率、学費、トラブル、怪我・事故等、学内	入学以前に入手する家庭事情等を、必ず引き継ぐ。（英語科） 学生の母国にまで電話をするようなことがないように日々の学生とのコミュニケーションを深めていくことが大切である。（国際ビジネス科）	遠方の方にはリモート対応で三者面談を実施している。出席欠席に関しては随時保護者と連絡しており、一定のレベルを超えると三者面談を実施している。（英語科）

	評価項目	評価（昨年度） ④適切　③ほぼ適切 ②やや不適切　①不適切	課　題	今後の改善方策	特記事項
			で解決できない事象に関しては、母国の親族に電話をして、事象の解決に努めているが、時間がかかることが課題。（国際ビジネス科） 問題のある学生にのみ連絡している。（国際文化科）	学生に子供扱いしていると受け取られないように連絡する案件の選別をして、迅速に対応する。（国際文化科）	
	④　卒業生への支援体制はあるか。	3（3）	卒業生の追跡が十分ではないと認識している。今後は卒業生との連携を深める体制を整えていく。	同窓会組織をもっと強固なものにし学校と同窓会の連携を強化する。	120 周年を機に卒業生のメッセージを募集したところ 100 名近い卒業生から反応があった。
	⑤　高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。	3（3）	現在は特に行っていない。今後は連携校を探すなどの動きが必要になる。	現在交流がある博多高校や福岡海星女学院高校が有力な相手先となる。	まずは職員の交流からスタートしたい。
教育環境	①　学内の実習施設・インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか。	3（4）	海外研修については出入国制限緩和に伴い、ほぼ全面再開しているが、円安・物価上昇による金銭的理由で参加希望者がほぼいない。今後は、学生が参加しやすいプログラムを検討したい。 国際ビジネス科国際ホテル観光ホスピタリティコースにおいては、毎年、期初までにインターンシップ先を確定させることが課題。授業内の実習については、実習機材が少ない中で、外部講師の先生方がホテルから持参頂いたものを使用しながら実施しているのが現状である。	マレーシア、タイ、フィリピンなどアジア方面でコストを抑えたプログラムの新規開拓を行う。沖縄研修も引き続き実施し、国内でもホームステイ体験ができるようにする。 国際ホテル観光ホスピタリティコースのインターンシップ先の確定は、2022 年度の 3 社のホテル、その他福岡市内ホテルに対し、営業活動を実施し、早期確定を目指す。授業内容に関しては、外部講師の先生方、教育課程編成委員会でのご指摘等も含め、引き続き、改善に努める。	アジア方面の提携校を増やしたい。 H 検定（ホテルビジネス実務検定）合格者が 2022 年度は、合格者無し（日本語能力の問題）で、HRS 検定（レストランサービス技能検定）への移行を考えているが、現状設備では、認定校になることができず、当校移転タイミングでの検討課題になる。
	②　防災に対する体制は整備されているか。	4（4）	消防法に定められた防災訓練を確実に計画・実施している。本校の実情に合わせて午前と午後の 2 回に分けた訓練を実施するとともに、所轄の消防署に確実に実施報告を行っている。	命に関わる問題であり学生を指導する職員の防災意識を更に高めていく取組が必要である。今後は職員の図上演習も考慮に入れたい。	
学生の受入募集	①　高校・高等専修学校等に対して情報提供等の取組が適切に行われているか。	3（4）	福専各広報委員会が作成する「福岡県専門学校案内」の内容統一化・ホームページ化が実現した。本校もそれに沿った情報提供を実施している。今後は、その内容を広く知らしめていく工夫が求められる。	左記のことを実現するために、福専各 HP より本校 HP に訪れた方に本校の特徴を理解してもらうため、国内外大学編(2＋2)を強調したい。	就学実績がある高校を訪問し情報提供を図ることも考えたい。
	②　学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は、正確に伝えられているか。	3（4）	学生募集活動に使用する募集要項を毎年更新し、それをもとに入学希望者へ進学や就職状況の説明を行っているが、資格取得情報に関してはオープンにしている場はない。	進路情報、資格取得情報ともに各情報を集計した資料の作成が必要。それをもとに募集活動に活かしていく。	
財務	①　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4（4）	財務基盤安定のため学生数の確保が要となる。社会ニーズに応じたコース設置など選ばれる学校を目指し、且つ適正な収支バランスを保つ必要がある。	安定した学生数維持のため各部署が協力体制をとり、より健全な財務状況を維持する。	

	評価項目	評価（昨年度） ④適切　③ほぼ適切 ②やや不適切　①不適切	課　題	今後の改善方策	特記事項
	②　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4（4）	財務諸表については、予算対比・前年度対比・社会情勢等を鑑みながら適正に作成されており妥当なものとなっている。	中長期事業をもとに精度の高い財務予測を行っていく。	
法令等の遵守	①　法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4（4）	監督官庁である私学振興課及び出入国管理局に適宜適切なアドバイスを求めるとともに連携を深めていく。	関係行政機関等への早期の報告・相談を心がけていく。	数年来、福専各会長校として模範的運営を心がけてきた。今後もその方向に変わりはない。
	②　自己評価の実施と問題の改善を行っているか。	4（4）	2015 年から実施している学校自己評価の結果に基づき毎年改善を行っている。全職員で課題を共有し、スピーディーに改善策を実行に移していくことが大切だと考えている。	学科長会を軸に方針を明確に定め、全体会の場で本校の成果と課題を共有し、評価・改善に対する職員の意識を更に高めるようにする。	
社会貢献・地域貢献	①　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4（4）	留学生の派遣依頼に対しては積極的に参加奨励すると共に授業措置についても配慮していく。	異文化交流を起点とした社会貢献・地域貢献を更に充実させる。	恵まれた教育環境を更に活かす取組にチャレンジしたい。
	②　学生ボランティア活動を奨励・支援しているか。	4（4）	外部との交流イベントやボランティア活動参加は学校として積極的に奨励している。本年度は、イベントの一環として学校前道路の清掃活動に取り組んだ。	日本語のスキルアップや自己の成長につながる良い機会であるので、新規のイベントを企画すると共に積極的に参加するよう促していく。	本年度はキッザニア福岡との関連で「夢応援プロジェクト」や中学校を訪問しての「社会人講話」にも参加した。
国際交流	①　留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行われているか。	4（4）	コロナ禍では実際に海外への訪問ができず、オンラインでの会議やガイダンスが中心となったが、徐々に現地に足を運べる環境になってきたため、オンラインと対面の両極からのマーケティングが必要となる。国内に関しては日本語学校との連携を深めていくことが必須。日本人学生の海外大学編入についても、1+1 で海外の大学に編入ができるような相手校を開拓する。	各国の日本語学校や送り出し機関、国内においても日本語学校を定期的に訪問することにより、信頼関係を深め、学生募集を図る。また、100 カ国の在籍を目指し、マーケティング活動を行っていく。日本人学生の海外大学編入に関しては、更なる提携大学拡大を図る。	
	②　留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4（4）	本校は担任制に基づいた学習指導と生活指導を基本としているが、教務部と事務局が連携を図りながら充実した指導を目指す。	学生が困ったことを相談できるサポート体制は確立されつつある。さらなる充実を図る。	本年度は、学則の見直しを検討したい。

福岡外語専門学校

学校関係者評価委員会運営規程

（趣旨）

第1条　専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規定に基づき福岡外語専門学校（以下「本校」という。）に学校関係者評価委員会（以下「委員会」という。）を設ける。

（目的）

第2条　委員会は、本校の教育活動全般に関し、学校長に助言することを目的とする。

（委員会の構成）

第3条　委員は５人以上７人以内をもって組織する。

2　委員は次の各号に掲げる者とする。

一　認定過程における業界関係者　１名

二　卒業生　１名

三　保護者　１名

四　地域住民　１名

五　中学校、高等学校の校長、進路指導担当者等　１名

六　学校運営に関する専門家　１名

七　地域の地方公共団体等の関係者　１名

3　委員会に委員長を置き、学校長をもって充てる。

（委員会の任命）

第4条　委員の任命は学校長が行う。

（委員の任期）

第5条　委員の任期は任命の日からその年度末までとする。

2　委員は再任することができる。

3　学校長は、特別の事情があるときは、任期満了前に当該委員の任期を解くことができる。

4　委員に欠員が生じた場合には補充することができる。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。

（委員会の開催）

第6条　委員会は毎年少なくとも2回以上開催しなければならない。

（個人情報等の保持）

第7条　委員は職務上知り得た個人情報の中に個人情報等の内容が含まれる場合、それらを漏らしてはならないものとする。なお、委員を退いた後も同様とする。

第8条　この規程に定めるもののほか、委員会運営上必要な事項は、学校長が別に定める。

附則

1　この規程は、平成31年4月1日から施行する。

平成４年度　福岡外語専門学校　第１回学校関係者評価委員会　議事録

1.　開催日時

令和４年６月 23 日（木）　11 時から 12 時

2.　場所

福岡外語専門学校　101 教室

3.　出席委員

友杉　隆志　（株）プレジデントホテルハカタ　代表取締役（業界関係者代表）
田篭　瑠子　福岡外語専門学校同窓会　副会長（卒業生代表）
畠山　尚幸　（株）キュー・エス・エヌ　代表取締役（保護者代表）
河津　善博　トリゼンフーズ（株）代表取締役会長（地域住民代表）
竹下　　徹　福岡海星女子学院高等学校　副校長
岩本　　仁　福岡外語専門学校　理事長兼校長
山本　　寛　福岡外語専門学校　法人本部長
森　　宏介　福岡外語専門学校副校長

4.　欠席委員

なし

5.　報告事項

(1)職業実践専門課程について
(2)本校の学科・コースについて
(3)学校の自己評価について
(4)令和３年度卒業生の進路について

6.　議事の経過

(1)職業実践専門課程について

森副校長が、職業実践専門課程認定に必要な５つの要件について概説。本校はすでにその要件を満たしていること、国際ビジネス学科の「国際観光ホテルホスピタリティーコース」を来年国際ホテル学科に格上げする方向で準備していること、２年後には職業実践専門課程の認定を受けるように準備を進めていることを説明した。

(2)本校の学科・コースについて

森副校長が、FFLC パンフレットの一部を活用し本校の学科・コースの説明を行った。

それに加え、山本本部長が福岡大学の阿比留教授を紹介。本校が阿比留先生を講師に招いて新たな学びの可能性を追求していることに言及したうえで、森副校長が新たなプロジェクトの実際について概説した。また、それに加え森副校長が、中川貴士先生を紹介すると共に、集団における学びに困難を感じる学生のケアーにも取り組んでいることを説明した。

(3)学校の自己評価について

森副校長が、学校の自己評価表を使いながら、学校で実施する内部評価の項目とそのプロセスについて説明を行った。

(4)令和 3 年度卒業生の進路について

森副校長が、令和 3 年度末の資料に基づき、本校の卒業生の状況について概説した。

7. 質疑応答の記録

竹下委員　：　英語科の進学希望者 27 人に対して進学者は 13 名、割合にして 48%という数値が気になる。実際はどのようになっているのか。

森副校長　：　海外進学希望者 5 名は海外渡航待機中。8 月以降、順次渡航するものと承知している。また、留学希望者のうち 11 名はワーキングホリデーを利用して海外経験を積もうとしている。いずれにしても、海外志向の割合が高い。それが本校の特徴であると考えている。

竹下委員　：　受験生や進学担当者は、志望校にどれぐらい合格したかをとても重視する。したがって、ホームページ等でわかりやすく示すことが重要である。

竹下委員　：　昨年度の資料をもらったが、英検準 1 級以上が 16 人、N1 合格者が 15 人と、資格取得の面では好成績を収めている。このことについても、広く公表することが大切である。

岩本委員長：　一昨年から教職員の評価制度を導入した。教職員からの評判は悪いが、業績評価の目標として進学率、就職率、資格取得者の数等をあげた。その成果が表れたではないかと思う

。

山本本部長：　公立学校で評価制度は導入されているか。評価は報酬と紐付いているか。

竹下委員　：　10 年程前から導入されている。一般教員はそうではないが、管理職は

業績評価が給与に反映される仕組みになっている。教育現場においては、個人の業績を計ることは難しい。例えば、英検 1 級に合格した生徒には複数の教師がかかわっている。それを個人の成績とするわけにはいかない。

岩本委員長：　業績評価は先生たちとのキャッチボールのツールになればよいと考えている。むしろ行動評価に力点を置きたい。私がこだわっているのは、学生に選ばれる学校にすること。学生が来てくれなければ教職員に給料を払うこともできない。一定の学生数を確保し安定的に学校を経営していくことが大切だ。

畠山委員　：　円安は海外留学に影響を及ぼしているか。

岩本委員長：　本年夏に米国短期留学を計画したが、航空運賃が約 40 万円、2 週間の総費用が 70 万円と高額になったため見送った。日本への留学生については、経済的に楽になる。

森副校長　：　英語科では、海外留学が難しいという現実を踏まえ、沖縄ホームステイキャンプを企画し短期間であっても英語漬けの生活を送ることで語学力の向上を期待している。

岩本委員長：　本校は今年 120 周年。①福岡オリヒメカフェ、②吉塚クリスマスマーケットのスポンサーとして社会貢献することを計画している。

河津委員　：　吉塚市場リトルアジア事務局では「日本語スピーチコンテスト」を開催する。FFLC にも参加していただき、地域を盛り上げてほしい。

平成４年度　福岡外語専門学校　第１回学校関係者評価委員会　議事録

1.　開催日時

令和５年３月 22 日（水）　14 時 30 分から 16 時

2.　場所

福岡外語専門学校　101 教室

3.　出席委員

友杉　隆志　（株）プレジデントホテルハカタ　代表取締役（業界関係者代表）
畠山　尚幸　（株）キュー・エス・エヌ　代表取締役（保護者代表）
河津　善博　トリゼンフーズ（株）代表取締役会長（地域住民代表）
竹下　　徹　福岡海星女子学院高等学校　副校長
岩本　　仁　福岡外語専門学校　理事長兼校長
山本　　寛　福岡外語専門学校　法人本部長
森　　宏介　福岡外語専門学校副校長
※本校顧問兼ブランディング部部長の岩本順子がオブザーバーとして参加

4.　欠席委員

田篭　瑠子　福岡外語専門学校同窓会　副会長（卒業生代表）

5.　報告事項

(1)令和５年３月卒業生進路状況・資格取得・イベント等について
(2)学生アンケートの結果について

6.　議事の経過

(1)　学校の自己評価について

森副校長が、報告事項で示した資料を根拠に、①教育理念・教育目標、②学校運営、③教育活動、④学習成果、⑤学生支援、⑥教育環境、⑦学生募集、⑧財務、⑨法令遵守、⑩社会・地域貢献、⑪国際交流の各項目ごとに学校の自己評価結果を概説し委員の見解を求めた。

7.　質疑応答の記録

河津委員　：　コロナウイルスの影響はいかがか。現在、コロナ前の状況に戻っているという理解でよろしいか。

岩本委員　：　コロナ期間中、日本語科の学生は全く入国できなかったが、本年度は定員に近い学生を受け入れることができている。反面、日本語学校から本校の専門課程に入学する学生が極端に少ないため、国際文化科と国際ビジネス科の学生は少ない。来年度以降、順次、コロナ前の状況に戻っていくだろうと予測している。

竹下委員　：　ホテルコースの学生が 2 名進学しているが就職ではなく進学したのはなぜか。

岩本順子　：　ホテルコースの学生 2 名については、家族ビザがとれた関係で必ずしも就職する必要がなくなった。そこで、さらなるキャリアアップを目指して進学を選んだと聞いている。

竹下委員　：　英語科は TOEIC800 点以上が 10 人、英検準 1 級以上が 17 人と好成績を収めている。また、卒業生の状況について広く公表することが大切であると考えるがホームページ等で公表しているか。

岩本委員：　卒業生の様子については、彼らの協力を得てホームページ上で動画を公開している。来年度は、本校英語科を卒業しフランスの EMBA で学びその後タイのランシット大学の大学院に進学した学生の姿も HP 上で見られるようにしたいと思っている。

竹下委員　：　動画となると準備も大変だと思う。あまり構えることなく静止画とちょっとしたコメントなどで公開することも考えるとよいのではないかと思われる。

竹下委員　：　国際交流について、本校（福岡海星女学院高等学校）にも留学生に来てもらった。その甲斐もあり去年は 2 名、来年は 1 名、本校から FFLC に進学を希望する生徒が誕生した。今後も続けていただくと双方の利益となるに違いない。

竹下委員　：　学校の自己評価は非常勤の教員向けに講師会で積極的に示し、共通理解を深めていくことが大切であると考える。

竹下委員　：学生支援に関連して学生の定着率はどうか

森委員　　:学校は100パーセントの定着率を目指しているが、現実的には退学者も少なくない。退学していく学生は、入学動機が曖昧である、メンタル面でのケアーが必要な学生であるなど、入学時点で時に心配していた学生がほとんどである。学校としては、そのような学生に対し面談を行う等様々なケアーを行っている。

岩本委員　：　学校は教育機関であることをふまえ、多少心配ではあってもチャンスをあげたいとの思いで入学させることにしている。また、週1回、心理カウンセラーの資格を持つ立花高校の先生に来てもらい、当該学生のメンタルケアにあたってもらっている。

畠山委員　：　ボランティアに関して「掃除の時間」があってもいいのではないかと思う。地域住民に学生が掃除をしている姿を見せるのも学校のイメージアップに効果的である。

森委員　　：　そのような思いでボランティアイベントを企画・実行した。来年度も同様に行いたい。日常的には、午前・午後の授業終了後、当番制で掃除に取り組んでいる。文化の違いもあり、特に欧米系の学生は掃除をすることに不満を表すものもいる。

山本委員　：　欧米系だけでなく、カースト制が残っている南アジアの国々からきた学生は、「掃除は身分の低い人々の仕事」「女の仕事」と考え、拒否する者もいる。

友杉委員　：　それであっても学校が覚悟を決めてやらせることが大切。学校アンケートでトイレが汚いという意見があったが、それならばなおさら掃除から学ばせることを考えたい。特に玄関と水まわりが大切。カリキュラムに組み込んでやることも考えてはどうだろうか。

友杉委員　：　卒業生から在校生へ「私はこのようにして進学・就職を勝ち取った」という内容を伝える会をもってはどうか。

岩本委員　：　卒業式を前にそのような機会がもてればよいと考える。